

2014年度 大学院 人間生活学研究科生活満足度調査 結果を受けて【公開用】

藤女子大学大学院 F D委員会では、人間生活学研究科生活満足度調査を実施後、得られた結果を解析し、今後の課題を取り上げて、検討いたしましたので、ご報告いたします。

1. 調査対象者：本学大学院に在籍する大学院生
2. 実施期間：2015年3月3日（火）～4月8日（水）
3. 実施方法：アンケート調査票を配付後、自己記入方法ならびにパソコンによるUSB入力により、直接または郵送法により回収
4. 回収率：配付15名のうち、回答が得られた11名について解析を実施（回収率73.3%）

Q1：あなたが、本学で意欲的に取り組んできたことは何ですか。回答数：10名

- 研究・学びについて 10名
(研究分野の現状把握、調査、資料収集、研究について知識を高める。大学時代に学んだこと以外の分野についても学ぶなど)
- 特になし・無回答 2名
- その他：TA 1名、後輩への指導 1名

Q1-1：意欲的に取り組もうとして、結果的に不満だったことは何ですか（複数回答）。

- 研究法や統計に関する指導が不足 1名
- なかなか環境に適応できず、研究を進めることができなかった 1名
- 研究対象(外部機関)に関する資料の収集が難しかった 1名
- 特になし・無回答 7名
- 自分の研究以外の仕事を任された 1名

Q2：あなたは、在学中にどのような能力をどの程度身につけましたか。

- 先行研究の検索方法や論文記述の基本と論理的思考。論文を書くための基礎的能力。考える力、情報が本当に適切かを調べるようになった。文献を読みとる力など 6名
- コミュニケーション能力。「報・連・相」が身につき、計画的に動ける 2名
- 特になし・無回答 3名

Q2-1：身につけようとしてうまくいかなかった能力は何ですか（複数回答）。

- 説明力 2名
- 先行研究の文献検索で機能を使い切れていない。比較研究の方法は十分に学ぶことが出来なかった 2名
- 積極性。計画性を持って行動をすること。1名

- 英語力。 1名
- 特になし・無回答 6名

Q3：大学院で開講されている授業（特論や演習など）についての長所や問題点を書いてください。

『長所』

- 先生との距離・院生同士の距離が縮まるという環境。様々な職種の院生と意見交換ができる。 3名
- 幅広く分野を学ぶことができる。視野が広がる。 2名

『問題点（課題）』

- ディスカッション等をする機会に恵まれていない 1名
- 専門外の授業で課題が多い 1名
- 特になし・無回答 5名
- その他 1名

Q4：カリキュラムや履修システムの長所や問題点を書いてください。

『長所』

- 社会人と学生が共に学ぶ機会がある 3名
- 幅広く分野を学ぶことが出来る。視野が広がる 3名
- 各人に合わせた柔軟な開講体制 1名

『問題点（課題）』

- 社会人学生に対する配慮（時間割や授業日程が社会人優先で学部卒に不満） 1名
- 履修登録後、履修日不明により、授業に参加できなかった。前期集中・後期の際にも名簿にはなく、教務の方も気づいてほしかった。連絡の不行き届き 2名
- 履修登録が不便。 1名
- 特になし・無回答 6名

Q5：修士論文作成に関する指導（特別研究など）について長所や問題点を書いてください。

『長所』

- 定期的に指導時間があり、取り組む体制。細かな部分の指導が可能 4名

『問題点（課題）』

- 過去の修士論文が図書館にしか無い。 1名
- 特になし・無回答 7名

Q6：学生支援システムや各種サポート体制についての意見を書いてください。

- 就職支援や学生支援システムや各種サポート体制 3名

- 社会人院生は、あまり使わなかった 2名
- 特になし・無回答 6名

Q7：教育施設（図書館、パソコン、実験設備など）・福利厚生施設（食堂、購買、学生相談室など）についての意見を書いてください。

- 院生室整備の不十分（PC機器の不具合、環境） 5名
- 電子ジャーナルが1度も利用できなかった（社会人のため）。 1名
- ほとんど使っていないのでわからない 1名
- 特になし・無回答 6名

Q8：その他、学生生活全般についての意見を書いてください。

- 現状であらかた満足している。 1名
- 社会人入学生の継続入学を願う。 1名
- 特になし・無回答 9名

※Q9以降は、前年度2013年度と同様の設問のため、比較しています。

Q9：あなたが本大学院に入学してよかったと思いますか。あなたの気持ちに最も近いものを1つ選び、○をつけてください。

- | | |
|--------------------|--------|
| (2) よかった | 前年度 5名 |
| (6) どちらかといえばよかった | 3名 |
| (2) あまりよくなかった | 1名 |
| (0) よくなかった | 1名 |

Q10：あなたは全般的に見て研究科や所属した専攻に満足していますか。あてはまるものを1つ選び、○をつけてください。

- | | |
|----------------------|--------|
| (5) 満足している | 前年度 7名 |
| (4) どちらかといえば満足している | 2名 |
| (2) あまり満足していない | 1名 |

Q11：本研究科に興味を持っている先輩・後輩、きょうだいがいる場合、あなたは本学への入学を勧めたいと思いますか。あてはまるもの1つを選び、○をつけてください。

- | | |
|--------------------|--------|
| (2) 勧めたい | 前年度 2名 |
| (1) どちらかといえば勧めたい | 3名 |
| (7) どちらともいえない | 3名 |
| (1) あまり勧めたくない | 1名 |

Q12：以下の項目の中にあなたが学生生活の中で不安に思ったり、悩んだりしたことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|-------|------------------|--------|
| (6) | 修了後の進路・就職 | 前年度 5名 |
| (5) | 学業・研究内容 | 2名 |
| (2) | 経済的な問題 | 2名 |
| (2) | 仕事との両立 | 1名 |
| (1) | 家族との関係 | 1名 |
| (1) | その他(具体的に 体力の消耗) | |
| (3) | とくにない | 1名 |

【生活満足度調査 結果を受けて 2015 年度に改善対策を実施した項目】

・大学院FD委員会（2015年4月29日）では、生活満足度調査 結果を受けて、次の1～5項目の課題を挙げて検討し、研究科委員会で報告した。

- 1 大学院生の授業以外での負担について
- 2 TA 手当の件
- 3 修了後の就職支援
- 4 研究へのサポート体制の問題点
- 5 その他

・研究へのサポート体制としては、修士論文を図書館だけでなく、研究室においても閲覧可能なシステムにする。

・履修登録は、2015年度 F-station より、自宅からも行うことが可能。

・就職支援体制は、2015年度より、院生用サポートとして配慮するようになった。

上記1～5項目について、今後の改善策に院生のみなさんからのご意見を活かしたいと考えている。